

ごあいさつ

小さい頃、春になると弟や従兄弟のために5月5日の子どもの日まで、こいのぼりを上げるのが、長女の私の仕事でした。最近都会では、大きなこいのぼりは見かけなくなりました。出生率1.32、日本は先進国で一番子どもの少ない国になりました。東京では出生率は1です。昨今、子どもや家族の悲しい事件が話題です。「子供の気持ちが判らない…」「親心が伝わらない…」そんなふうには言わないでください。親が先に生まれたんです。私達みんな、赤ちゃん・子ども…とやってきたんですから。まして自分の子だったら理解しよう、判ってみようとしていきたい…。かつて子どもだった時の事、思い出してみませんか？ 子供1人より2人育てあげるのは「楽」ではないかもしれませんが、でも3人いれば、1年に3回の誕生日のお祝い、3回の成人式、もしかしたら3回の結婚式など、きっと家族で祝う楽しい思い出はいっぱい。

先日、井上生まれの5兄弟が笑顔で退院されました。今どき5人と驚く前に、その明るい笑顔に心打たれます。いつかそれぞれが、5人のお嫁さんと出会って、いつか戻って来たら？ 雪が溶けて、春が来るように、子どもはいつか育て親になります。私たちスタッフはいつも元気で家族みたいな気持ちで待っています。幸せの青い鳥はどこ？ 答えはみんな覚えてるよね？

URL <http://www.m-ship.net/ilc> 2003年7月12日 NPO MOTHER SHIP 代表 井尾 裕子

NPO MOTHER SHIP

いつの時代でも子どもの誕生は人生最大の感動です。子どもは宝物！

私たちは、生まれてくる新しい「いのち」との出会い、そしていつかは迎える別れまで、ずっと「いのち」の大切さを考えていきたいと、NPO「MOTHER SHIP」を設立し、定期的にチャリティイベントなどを開催してきました。これからも弱い者、小さい者、病気の者を思いやり慈しむ気持ち、差別しない気持ち、そんな当たり前の気持ちを伝えていきたいと思っています。

NPOとは、Non-profit Organizationの略で、様々な非営利活動を行う非政府、民間の組織であり、通常民間非営利組織のことを言います。

米国でエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すためにレッドリボンをシンボルにした運動が始められました。レッドリボンはエイズ患者・HIV感染者の方々に対する理解と支援のシンボルです。このリボンをつけることでエイズに対する偏見や差別をなくそうという気持ちを表しています。



米国で乳がんの定期検診と自己管理の大切さを理解するためにピンクリボン運動が始まりました。日本でも40歳以上の女性の死亡率トップは乳がんの時代です。30人に1人が罹患しています。大切な家族、友人のためにも乳がんの早期発見から早期診断をアピールしていきましょう。



第12回 井上レディスクリニック Wリボン チャリティイベント

ファミリーコンサート



2003年7月12日（土）午後3時30分～5時

NPO MOTHER SHIP



INOUE LADIES CLINIC

プログラム

第一部

- 1 トルコマーチ 作詞作曲 モーツァルト
- 2 青い鳥 劇団四季「青い鳥」より
- 3 虹の彼方に ミュージカル「オズの魔法使い」
- 4 いつの日か 劇団四季「青い鳥」より
- 5 生まれるってどんなこと 劇団四季「青い鳥」より
- 6 ビデオ「子供」
- 7 あなたが美しいのは 作詞作曲 小椋佳
- 8 愛をありがとう 劇団四季「夢から覚めた夢」より

休憩

コーヒーブレイク

第二部

- 1 ビデオ「岡山時代」
- 2 大切な人たち 作詞作曲 杉田曜子
- 3 ビデオ「汽車」
- 4 その手をつないだままで 作詞作曲 杉田曜子
- 5 ビリーブ 作詞作曲 杉本竜一
- 6 神よなれに近寄らん 作詞 セーラ・アダムス 作曲 ローエル・メーソン

BELIEVE

1

たとえば君が 傷ついて
くじけそうに なった時は
かならずほくが そばにいて
ささえあげよ その肩を
世界中の 希望をのせて
この地球は まわってる
いま未来の 扉を開けるとき
悲しみや 苦しみが
いつの日か 喜びに変わるだろう
アイ ビリーブ イン フューチャー
信じてる

2

もしも誰かが 君のそばで
泣き出しそうに なった時は
だまって腕を とりながら
いっしょに歩いて くれるよね
世界中の やさしさと
この地球を つつみたい
いま率直な 気持ちになれるなら
憧れや 愛しさが
大空に はじけて耀(ひか)るだろう
アイ ビリーブ イン フューチャー
信じてる

今未来の 扉を開けるとき
アイ ビリーブ イン フューチャー
信じてる



宇田川家族 プロフィール

両親、三女一男の6人家族。1990～93年「大好きな歌」のカセットをアメリカ人の友人にプレゼント。それがゴスペルシンガーのジャネス・カップペリーの目にとまり、「愛の言葉」のCDレコーディングとなる。熱心なクリスチャンで、現在は地域の公民館、病院、学校、老人ホームなどでコンサートを月に2～3回開催している。

